

会 議 録

会議名	第5回かつらぎ町長期総合計画審議会
日時	平成25年4月16日（火） 18:30～
場所	かつらぎ町防災センター 1階
出席委員	<p>岡村 祐三 伊藤 和子 安武 史 西浦 康祐</p> <p>山田 耕作 阪中 孝三 藤田 武弘 澤本 義明</p> <p>志富田和代 阪田 惠央 田口 順啓 谷口 守</p> <p style="text-align: right;">【順不同敬称略 12名出席】</p> <p>欠席委員：前田裕巳</p>
公開状況	公開（傍聴者0名）
次第	<p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 審議会の傍聴（公開）について ・ 第4次長期総合計画（素案）について ・ その他 <p>4. 閉会</p>
資料	<p>1. 第4回かつらぎ町長期総合計画策定審議会における意見等に係る検討事項【資料1】</p> <p>2. 第4回かつらぎ町長期総合計画策定審議会会議録</p> <p>3. 長期総合計画（最終素案）</p> <p>【追加資料】</p> <p>1. 第5回かつらぎ町長期総合計画策定審議会（担当課修正分）</p> <p>【資料2】</p>

1. 開会

事務局より開会のあいさつ。審議会の開催にあたり、委員13名中12名の出席により本会議が成立していることを確認。

(事務局)

今回の議事については非公開とする案件を含まないために公開としてよろしいか。

<「異議なし」の声あり>

本日の会議は公開とさせていただきます。それでは、藤田会長からご挨拶をお願いします。

2. 会長あいさつ (藤田会長)

みなさん、こんばんは。第5回ということで、答申の直前のところまで議論が詰まってきました。みなさんには委員としてお越しいただいて、ごくろうさまでございました。熱心に、それぞれの立場、あるいは町民の一人としてご意見頂いたのかなと思います。是非実りある形で答申を行いたいと思いますので、特に今日は、これまでご議論いただいた具体的な計画部分を踏まえて、懸案事項になっておりました、町の将来像に係るスローガンと、一番大事な将来人口について議論をしていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

— 豊岡副町長より審議委員の方への謝辞 —

3. 議題

- ・審議会の傍聴（公開）について

開会において確認及び承認済

- ・第4次長期総合計画（素案）について

事務局より配布資料の確認

前回審議会における議論に対する修正点について事務局より説明

(会長)

ありがとうございました。資料1、資料2に基づきまして、前回まで議論頂いた基本計画の部分についての修正事項をご説明頂きました。とりわけ資料1につきましては、この場で前回議論頂いて、修正対応あるいは内容の拡充等求められたところについての部分であったと思います。

その部分について事務局はこのように対応したけど、これでいいのかということのご意見はありませんでしょうか。特に前回は、医療の部分を含めて、相当基本計画の後半部分を議論いたしましたので、こういった修正内容で本当に良いのかというようなご意見等はございませんか。いかがでしょうか。お気づきの点があったら、どんなことでもよろしいかと思えます。

ちょっと、私から申し上げたいんですけども、時間をかけて議論したこの計画が、

実現されていくのかという進捗管理の部分なんですけども、資料1の3ページ目のところに、総合計画の進捗管理における第三者協議会の実施について書かれています。

(本編の)101ページのところに、総合計画の進捗管理については、事業の取り組みを評価する第三者評価の導入について検討しますと書かれています。検討された結果導入しないこともありえるので、ちゃんとこれを管理していくのかという姿勢ですね。検討しますって非常に弱い気がします。いかがでしょうか。

(事務局)

行政評価そのものの仕組みづくりは、現在取り組み始めたところであり、まずは行政評価システムの確立と定着を図ることが必要と考えている。

それと並行して、第三者評価について検討進めるということで考えている。

(会長)

皆さん、いかがでしょうか。最初にも言いましたが、やっぱり作ったものの進捗管理、ある程度、中期的な計画とアクションプランなどで年次ごとに検証して、どこまで進んでいるのかということを確認することは必要と思います。

おっしゃるようなシステムは作る必要は確かにあると思いますけども、システムができてからそれやろうかということだと、ひょっとしたら、次の計画の時になってしまいかねないんじゃないかという気もします。そのあたりはスピード感が要請されていることなのかなという気はします。

だから、評価システムそのものを構築するというは、確かにすぐにできる課題ではないと思うんですけども、少なくとも、進捗管理の機関もおかずにいるとすぐ数年経過してしまう気がしますので、第三者評価というのは大げさなものになるかもしれませんが、ここに参加されている審議員の方々が1年後ほんとに町は取り組んでいるのかというようなことを、言えるような場というか機関というか、そういったものをなにか作らないと、結局あれだけ議論したけど、次の計画まで何に取り組んだのかという話になってしまうのではないかと、と思いますがいかがでしょうか。

(委員)

これは、この計画は5か年なのか。

(事務局)

構想部分は10年、基本計画は5年です。

(委員)

この計画を実際まちづくりのために、活用するのは何年からの予定なのか。

(事務局)

この年度の議会の中で、承認を求めて行くようになりますが、この基本計画の部分で申し上げますと、平成29年までの計画ということになります。

(会長)

25年から5年間ということですね。

(事務局)

はい。

(会長)

さっそく今年度から（計画年度に）入っているわけですね。

(委員)

この計画を実際生かしていくのに、年次の予算の中へどう位置付けていくかというのが、一番の課題だと思う。計画を作っておくのではなく、毎年毎年の予算の中に位置付けて具現化を図っていく、これが1番大事なことだと思う。

それが我々町民として、目で見ても、あのことをこんな形でしようとしているんだな、とわかることがいいわけで、今まで長期総合計画が10年というかたちで、その都度作られてきた。そのたびにまちづくりの構想が立てられたが、状況が変われば内容も全然変わってしまうということもあった。

だから今回の長期総合計画は、会長の指導のもと、案が固まってきているが、今後計画を作るだけではなく魂を入れるのか、それを確かめる場は作ってほしいと思う。

この計画の内容をそのまま具体化するの難しいかもしれないが、それぞれの担当課でしっかり検討し、年次の目標を立てて進めて行って欲しい。

(会長)

はい、ありがとうございます。まさに、その通りで、そういう取り組みがないと、この5回にわたってみなさんが意見を発言されたことは、報われなと思います。

今回は総合計画なので、例えば5年ごとのそれぞれ基本計画をいくつか作ったけども、これは26年までにするんだ、これは27年までにするんだ、とここまで決める必要はないと思うんですね。あくまで柱立てでいいと思うんですけども、その柱立てが認められたときに、それを5年間のどのスケジュールでやっていくのかということとは、次の施策の段階だと思います。

その施策の段階を検証できる仕組みを作っておかないと、せっかく作ったけど、評価のシステムができてないということではずるずるいくと、5年間何をしてたのかという話にきつとなってしまいます。

だから、事務評価のシステムとして、流れを作るのはいいいんだけど、計画を本当に実践するのかどうかを、予算に裏付けさせるのかどうかを縛っていくような仕組みは、今こそ用意しておかないと、できないと思います。

だから、検討するというレベルではここは弱いかなと思います。みなさんどうでしょうか。せっかく今回、ほんとに役場の職員から町民、みんなが入ってここまでやっているのだから、評価の場づくりについてちゃんとやりましょうよ。

あの時のあの計画をいつまでにこの年度にまでやろうというような計画、予算に反映できるのかどうか、財務当局との折衝があると思いますが、それはしんどくてもやらなければいけない作業だと思います。

(事務局)

地方自治法上の長期総合計画の策定義務はなくなったとはいえ、この計画を作ることになったのは、これからまちづくりしていくうえで、どのような方向でいくのか、どんなまちにしていくのかということについて、その指標となる基本構想を作り、住

民の方と共通認識を持つというところから始まっている。

今後、どのように進んでいくのか、5年経過したときにどこまで計画が進んだのかという確認の必要性は認識している。

しかし、どのような形で具体的に進めて行くかということについては、現段階では（イメージを）持っておりません。

（会長）

検討しますだけだと方向性が見えないので、そこは今のご答弁に従って少し修正をお願いしたいと思います。

（事務局）

進めるという言葉を加えながら、表現を考えたい。

（会長）

進めるとか、管理するような、意見を聞くような場を作ることが必要だと思います。そこでその計画を25年から29年までの5年間のスケジュールの中で基本計画のこの部分はここまで、これを踏まえて次の年度ここまでとか、最初に目標をたてて、それを年次ごとにアクションプランとして進捗管理していくことが最近求められている手法だと思います。それをほんとにやったかどうかの評価になってくると思うんですけども。

（事務局）

表現については後日、会長と詰めていくことになると思うが、表現的には検討という言葉よりも進めるという方向の中で表現を考えていきたい。

（会長）

総合計画の進捗管理については書いてあると思いますが、進捗管理をするための機関を設置し、その評価の導入について検討するというような表現にした方がいいのではないのでしょうか。

設置することについてははっきり書いておいて、そこで、どう評価するか of 仕組みについては、検討するというだけでいいと思います。それは少なくともやっておかないと、関わった方々は5年間聞く機会や意見を言う機会ないですよ。

（事務局）

わかりました。

（会長）

そういった形の文言に改めてもらおうということで、答申までの最終的な文言の詰めは、私と副会長2人にお任せいただいてよろしいでしょうか。

（委員）

はい。

（会長）

じゃあ、そういうことですいませんが、もう一汗かいていただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。

他に、今回ご説明いただいた資料1に関するところで、お気づきのところ、ちょっ

と修正事項等が不十分じゃないかというようなところ、何かございませんか。

団体からお越し頂いて、ずいぶんたくさん修正されて、それだけ汗かいた後だと思うんですけど、充分それぞれの団体の意向は反映されてますでしょうか。大丈夫でしょうか。

では、一応、基本構想と基本計画については、最後の進捗管理の部分をもう一度修正いただくということを課題として、ひとまずは、この審議会として、すべての議論について終了したということによろしいでしょうか。

宿題としては、今回のご案内のところ、冒頭に書いてある、先ほど説明があった、〇〇という、かつらぎ町のスローガンの言葉と、あと人口1万7000人という掲げられた目標についてですね、第3回目だったと思うんですけども、全部の議論を終了し終わったのちに、果たして、妥当なものなのかどうかもう一度考えましようということになっていたと思いますので、そこのところは少し、最終的な議論をつめておきたいと思います。

21ページを開けて頂けたらと思います。ここのところに、20ページ・21ページですね、20ページのところの将来像と書いてある、〇〇と書いてある言葉ですね。

議論していただきたいのは、その将来像の〇〇のキーワードと、あともう1つは、21ページの目標人口の1万7000人について、果たして妥当かどうかという点の議論です。

第3回目の議事録、ちょっと今みなさんお手元にないと思うので、どんなこと議論しているかという、推計で言うと人口が平成32年に1万5547人になってしまう。何もしないとそのまま推移していくということです。

これを、増やすのではなくて、1万8000人からの減少幅をできるだけ少なくするという意味で、平成34年の目標人口として1万7000人。現在の1万8000人からは自然減等々で減っていくわけですけども、それを子育て支援とか、移住したくなるとか、そういったことによる社会増、移住者による子育てによって自然増、そういった取り組みにより減り幅を少なくして1万7000人に留めたいというのが、今回の計画の当初の目標値なんですね。

ここのところが果たして、今まで議論いただいた基本計画を管理して推進していくということを前提にした上で、この数字を守れるかどうか、目標としてここまで掲げて大丈夫かどうかというご意見をもうちょっと頂戴したいと思います。

その議論をするにあたって、ちょっと参考までにということで、県や県下の市町村が当然かつらぎ町だけにとどまらず、人口減少、日本全体で言われていることなので、どのような感じ、こういった長期人口見通しなり目標を掲げることについて、事務局でちょっと調べていただいているようですので、その数字をご参考までにご紹介いただいたうえで、議論しましょうか。お願いします。

(事務局)

県内全てを調べたわけではないですが、目標人口が設定されていない市町村もありましたが、目標人口を掲げてあった市町村、特に近隣市町村について状況を説明しま

す。

まず、和歌山県ですが、今の計画は平成29年までが計画期間ということになっています。和歌山県については、平成17年度で103万6000人、平成29年度の将来人口数値を97万5000人としています。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、平成32年に91万7238人となっています

近隣の橋本市では、今の計画は平成29年度までになりますが、平成17年度人口7万344人であり、目標として掲げている人口が6万7000人になっています。対して研究所の推計値は、平成32年に6万1210人になっています。

紀の川市についても、平成29年度を計画最終期間としており、平成17年度人口7万545人に対して目標とする将来人口は7万人になっています。対して研究所の平成29年度の推計人口は6万410人となっております。

九度山町は、平成32年を前期の計画期間としており、4500人という将来人口目標を掲げています。対して研究所の推計人口は平成32年で4051人となっております。

高野町は、平成30年度を目標とする長期計画となっておりますが、平成17年度の人口4632人に対して、目標年度の将来人口を4000人としています。研究所の推計値では、平成32年度で3161人となっています。

紀美野町は、平成28年度を目標とする計画ですが、平成17年度の人口1万1643人に対して将来人口を1万700人としています。研究所の推計値では、平成27年度は9326人となっています。

(会長)

県や県下の市町村の動きと、かつらぎ町が目標人口に掲げた現在の1万8000人が、平成34年には1万7000人までに留めるという掲げ方は、高いのか低いのかというのは、今ご紹介いただいたところと比べてどうなんですか。

(事務局)

今の数値から申し上げますと、前年比1%増ということになります。

(会長)

かつらぎ町は、10年後に現在の1万8000人から、1万5000人になるかもしれないという推計人口になっているわけですよ。それを今回の計画を実行することによって、平成34年時点で、ある程度減少幅を右肩下がりの曲線をちょっとでもフラットにしたい、そういう目標をかかげるわけですよ。

それが1万7000人なのであって、いずれにしても、今の人口から減るのは間違いないんだけど、その減るカーブを、少しでもなだらかにしたいというのが今回の目標人口ですね、この目標人口の掲げ方が、周辺の地域の目標人口の掲げ方と比較として、ものすごく高いものを掲げているのかどうか、ということなんですかいかがですか。

(事務局)

この数値は、目標人口としては、低い設定ではないと感じている。他の市町村の傾

向を見ると、今の人口水準を維持しようと将来人口の設計をされている自治体が多いと感じている。

(委員)

自然増というのは、本当に見込みが低いのではないか。自然減が間違いなく増えるので、社会増で増やさなければ今後人口は維持できないのではないか。

(事務局)

はい。

(委員)

目標数値が少し高いという気もするが、どうか。

(事務局)

確かに、これからの高齢者の人口比率と若年層の人口比率を見れば、決して低いわけではなく、多少高い目標とは感じている。

(会長)

21ページのもう1回確認しますが、将来推計人口の平成32年の1万5000人というのは、いわゆる移住者とか、定住者の推進施策とか、Uターンの促進施策とかまったく何もしなければ、こうなりますよという話ですよ。

このままであれば、1万8000人が1万5000人まで減るだろうと。今回の計画に基づいた取り組みを進めることによって、その1万8000人からの減り幅を1万7000人に留めようというのが今回の目標ということですね。

だから、10年間に2000人くらい社会増を、社会増の中でも夫婦世帯が来たりしたら、子ども生まれたりというのもあると思いますけど、そのような形でもっていきけるかどうかですね。

そういう数字として、1万7000人という数字が妥当かどうかということの議論を最終的にしないといけないと思うんですけども。ご意見いかがですか。これは若い世代に聞いてみたいですね。この1万7000人どう思いますか。

(委員)

高い方がいいのか、現実的な方がいいのかというのはあるが、今聞いた他の市町村に比べると、少し高い気がする。

(会長)

一方では目標自体掲げないというところがあるなかで、かつらぎ町は、人口規模からいろんな施策が設計されたりしていくということがあるので、掲げたいというのがこの事務局の説明でした。これ自体積極的な姿勢だと思いますが、あんまり現実離れた目標掲げるのもいかがなものかと思います。

(委員)

高い気がする。

(会長)

他の方がいかがですか。

(委員)

かつらぎ町の考えもありますので、人口目標を掲げるというのは必要とは思いますが、個人的には、別にいいのではないかと思います。

というのは、出て行く人、入ってくる人、無理に引き留めるわけではないので、出て行くなら出て行く、入って来るなら入ってくる、ただ、今までずっと議論してきたことを行政が実行してくれて初めてかつらぎ町に住みたいと思ってくれたような人なら、どうぞ住んでくださいという自然増。

そのために議論してきたわけであり、人口について議論しても、それこそ、目標達成しなくても、何もないのなら必要ないと思う。

個人的には1万7000人は高いと思う。人口増のよりこれをいかに実行していくのかの方が大事だと思う。

(会長)

今のご意見については、3回目の議論のやりとりの中で、具体的な施策目標を掲げる時に、住環境やライフラインとかは、人口を目標として設定していく、予算化していくというのがあるので、掲げておいたほうがいいかなという町の答弁は、それはそうかなと思います。

(委員)

それは、わかる。具体的に1万7000人が多いのか少ないのかということ、今の貴重な時間で議論するのは。

(会長)

ここでしか議論できないので。でもちょっと、高いとは思いませんか。

(委員)

高いと思う。そこまで真剣に議論することじゃないかなとも思う。

(会長)

わかりました。あとは、どうですか。

(委員)

高いと思うが、高めでいいと思う。高くすることで目標ができるので、そのために、こういう会議をやっていると思うので、高い方がいいのかなと思う。

(会長)

では、この1万7000人という目標を掲げても構わないのではないかとということですか。

(委員)

今より増えるという目標は、ダメだと思うが減っていく中で、減り幅を減らすという目標はいいと思います。

(会長)

あと、いかかでしょうか。

(委員)

目標は掲げたほうがいいと思う。人数的には、高いと思う。

(会長)

他はいかがでしょうか。

(委員)

経営でもなんでもそうだが、目標を立てるということは多い目にと、低い目標はないと思う。基本構想を作って、やっていけば、これぐらいの目標でありたいという、希望的な数値として、これぐらいでいいのではないかと思う。

(会長)

他いかがでしょうか。

(委員)

このぐらいで十分だと思う。

(会長)

他はどうでしょうか。

(委員)

かつらぎ町の毎月の広報を見ても、年間300から500人近く減少している。そうすると、平成22年から34年までの間の目標としては、年間で120人くらいに抑えないとこの目標は達成できないということになり、現実的には少し難しいのではないかと思う。

だいたい年間400人近く減っている人口を、年間の減少幅を120から130人に抑えようということなので、少ししんどいかなと思うが、今も言われたように、目標であればそれはそれでいいと思う。

ただ問題は、この計画を作った後に町がどうようにするかということが、一番自分たちで考えていかなければならないことと思う。目標は目標として、これでいいと思う。

(会長)

ほか、何かご意見ありませんか。

もちろん基本は、目標という数字だけが意味があるのではなく、その中身として基本計画に即したものがほんとに実現できるのかどうかということです。目指すべきものとしては、ちょっと高いかもしれないのだけれども、高めの目標を掲げるという形でしていくということでもいいのではないかというご意見がありました。

数字だけに意味があるということではなく、その目標を達成するべく、計画の努力をする、プロセスを努力するというので、町の方で出して頂いた1万7000人という数字は、減らす幅を最大限少なくすべく、基本計画の実現に努力するという意思表示の数字ということで、この審議会の場では、この計画の中に入れるということで、1万7000人でよろしいですか。

(委員)

ちょっといいですか。現状からすれば平成27年に目標値では1万7000人になっているが、平成27年の推計値では1万6千人になっているのに、平成32年に1万7000人を目標とするというのはやっぱり無謀と思う。

このグラフは、ゼロからスタートしているが、そうではなくてもう少し傾斜のきつ

いグラフに置き換えて、1万を基準にこのグラフメモリを作成すれば、この角度がすぐく下がってくる。

(事務局)

我々の技術的な面で、こういう線しか書かけていない。

1万7000人を基準として線をひいただけなので、直線になってる。施策の効果まで反映したグラフになっていない。

(委員)

わかりました。

(会長)

おっしゃるように、統計上自体、平成25年が開始年度なので、いろんな計画が実行できたとしてそれなりに効果がでるのには、さっき言ったようにすぐに効果が出ないとしたときに、2年後の平成27年には1万7000人を割ると想定されているとすれば、1万7000というのは、相当大変かもしれないという意見ですね。

これはこれで、ご意見としてはいいと思いますね。だけど、目標は1万7千人に掲げるという考え方はありだと思えますね。どうですか。

増やすというのは無謀な目標かもしれませんが、減少幅を留めるという点で言えば、高い目標ではありますけども、あるいは、その施策の効力がすぐ効くかどうかという点でいうと、今意見があったように不安ももちろんありますけども。

じゃあこれ1万6500人にしてどうなのか、という話はある限り説得力もないような気がしますので、いいですか。1万7000人を、ひとまず掲げるということで、構いませんか。

(委員)

みなさんの意見が、よろしかろうという意見が多いと思えますので

(会長)

ただ、高すぎるのではないかと、委員がおっしゃったような効果が出るのかどうかというので、相当心配な点もあるよというご意見は、付帯意見としてあるわけなので、この付帯意見をちゃんと解消すべく、ちゃんと年次ごとの目標の実現が図れているかという進捗管理をしていかないといけないと思うんですね。

先程の進捗管理は、よほどきっちりやって欲しいと思えますね。今のご意見に応える上でも、しっかりやって欲しい。

(委員)

もう一つ、このグラフは1万8000人ところから枝分かれしているが、1万8000人から枝分かれするのはおかしい。

平成22年で1万8000人なので、今は平成25年、これから計画していくとすると、枝分かれするのはもっと先の話になるはずではないか。

だから、平成22年度から、この計画は効果が出ているということになる。

(事務局)

わかります。

(会長)

ちょっとそのあたりも、ちょっと検討していただけますか。国調は確かにこれでいいのかもしれないけれども。

(委員)

平成27年ですごい開きが出てくる。

(会長)

直近の速報値で何人なんですか。かつらぎ町の人口で一番新しい直近の速報値で何人なんですか。

(事務局)

この3月末で1万8389人となっている。

(会長)

平成25年の3月ですか。

(事務局)

住民基本台帳の数字なので、国調より多く出る傾向にある。

(会長)

平成22年と平成25年でいうと、どれだけ多く出ているかわかりませんが、ちょっとそのあたり、国調ベースにして推計しているの、出し方が難しいかもしれませんが、ちょっと工夫していただいてよろしいですか。

では、目標の点については、ひとまずここで議論はいいですか。もう1つ、おそらくこの基本計画のサブタイトルくらいになってくる、20ページのスローガンのところですね。こここのところの言葉をどうするかということです。

さきほど、資料2のところ町長のご挨拶が載っていますが、こここのところですね。この総合計画を元に〇〇を実現していきましょうの、この〇〇をどういうふうなスローガンにするのかが、もうひとつ重要な議論です。

20ページに掲げてある、将来像へ向かうキーワードっていうのは、町長さんの言葉かなんかでしたかね。「笑顔で暮らせるまちづくり」、これ自体は非常に曖昧なので、やはり、町長が仮に変わっても、計画として目指すべきかつらぎ町の姿というのをキーワードとしてあげるべきだと思うんですね、その意味で、将来像のところにある〇〇なかつらぎ町になるのか、〇〇なまちになるのか、〇〇〇なふるさとになるのか、他のところの例で言うとは、だいたいその二つか三つぐらいに落ち着くのかなと思います。

その形容する言葉が〇〇ですけども、これをどんなキーワードで、この今回の基本計画として、町民にもわかりやすいイメージで出したらいいのか、ということですけど、なにかこのあたりご意見ありますか。

今までの議論で言うと、ポイントは社会増を増やすということが、1番大きなポイントになるのかなと気がします。住みたくなるような言葉、キーワードとしてあるのか、あるいは、出て行った人が帰りたくなる・戻りたくなるっていう言葉もキーワードとしてあるのかもしれない。それと、基本構想の中にあつた、緑豊かな・自然豊か

などというようなことも盛り込むこともありだと思います。

今までいろいろ議論したことを、町長が公約に掲げるとかで、コロコロ変わらないように、基本姿勢として、この5年・10年の計画・構想議論していただいたので、そこに掲げるキーワードですね、何がいいですか。

(事務局)

現行の長期総合計画のスローガンは「とびっきりの自然と笑顔があふれるまち かつらぎ」となっている。

ただ、いろいろアンケートや住民の方の意見を聴く中で、かつらぎ町は自然がいいということは、住民意識の中にある。

もう1点、今回総合計画の策定過程で感じたのは、最初は、自然や文化などの表現を盛り込んだスローガンを考えていたが、かつらぎ町からの人口流出の状態を見た場合、近場に止まっている人が多い。

その中で、帰ってきてくれるとか、戻ってくるという言葉が非常に多かったのかなということで、いずれは戻ってきてもらう、そこに住んでもらう、というような言葉が今回の審議会でも多く聞かれたように思う。

(委員)

イメージとしては、自然といえば和歌山県全部がそうとも言える。だから、かつらぎ町が特別自然が豊かだというわけではないと思う。だから、自然というよりも、人口が少ないから、人と人のつながりは結構濃いと思うので、そういう人のつながりというようなことの方が適しているのではないかな。

(委員)

田舎の人間が思うことと、都会の人間が思うことというのは、正反対というか、都会の人間から見たら、里などの言葉が好まれる、田舎にいとそういうの嫌いますよね、どちらかというところ。

住民のための基本計画だと思うので、ちょっと違うのかなと思うんですけども。

(会長)

住民がこういうまちづくりをこれから頑張っていていこうよと思うためのものですよね。外向けに見せてどうのこうのじゃないですよ。だけど、外の方は、こういうスローガンを掲げているまちなんだなと思ってみるのは見ますよね。

(委員)

人口の減少幅を少なくするというのは、結構な目標の1つなので、今住んでる人が出て行かないように、他市町村から来てくれる人も来てほしいけど、今住んでる町民に訴えるような、ずっとこのまま10年後も住み続けたい、というようなもの。

10年後じゃなくても、老後のこと考えたら、限界集落みたいになって、誰もいなくなってしまうのは嫌だなと思う。

心配なので、もっと先をみたら、こういう感じに思っている。10年後でも、周りに誰もいなくなる可能性があるので、そういう、転出をせずにかつらぎはいいとこだから、みんな住みましょうというような、自分のまちを好きになって、誇りを持って

住み続けていきましょうみたいな内容はどうか。

(会長)

今出てきてのるは、住み続けたいまち、かつらぎの人が地元で住み続けたい。

(委員)

昔の風習かもしれませんが、向こう三軒両隣の付き合い方。いまちちょっと希薄になっているので、そういう風なニュアンスなのがあれば、いま見直されている状態だと思うので。

(会長)

震災後、繋がりとか、絆、ってという言葉が注目を集めてますよね。

(委員)

繋がりがあれば、引き留められるのではないか。

(会長)

繋がり、絆、住み続けたい、とキーワード出てきています。

(委員)

まちを作っていくということは、みんなの力で作っていくという感覚で、笑顔と協働で楽しいまちづくりというような言葉はどうか。

(委員)

他の地域から来ていただくということ視野にいれるのであれば、住みたくなる。

(会長)

住み続けたい、住みたくなる、両方いるということですね。

(委員)

言葉的には、最後にどう思うか。最後にそこで住んでいた時にどう思うか。言葉的には、「やっぱり、ここやった」、「やっぱりこのまちでよかった」、そういう言葉を使うと、住んでてよかった、仕事できてよかった、自然がよかった、環境がよかったっていうようになると思うんで、〇〇がよかった、ここでよかったと最後に思うのが一番だと思うので、そういう町になるように、どうよかったのかと、他と比べて1番よかったとか…。

最後には、やっぱりここで、〇〇がよかったと思わせるようなかつらぎ町になって欲しい。将来像ではなくて、キーワード使うのであれば、キャッチフレーズ・キャッチコピー。

短く言うなら、ここが1番とか…

住んでてよかったと言えるまち。

(委員)

人口目標であれば、住んでてよかったまち。

(委員)

やっぱし、ここでよかったかつらぎ町。

(会長)

みんなの心に響く言葉にすればいいと思うので、いいと思います。

(委員)

やっぱし、ここやかつらぎ町

(会長)

何個か出てるんで黒板に書いてもらっていいですか。投票で決めましょう。

- ・きれいな、住みたいまち、かつらぎ
- ・住みたくなるまち、かつらぎ
- ・住んでみて、ここが1番、かつらぎ町
- ・住んでよかったまち、かつらぎ町

人がつながるまち、かつらぎ 絆

ふるさと

- ・笑顔と協働のまち、かつらぎ
- ・やっぱしなあ、住んでよかった、かつらぎ町

住んでよかったと言えるまち、かつらぎ

- ・ここでよかった、かつらぎ町
- ・住みたくなる、住み続けたい、かつらぎ町

輪になるとか、人と人の

大好きなまち、やっぱし、大好き、かつらぎ町

- ・繋がれるまち、かつらぎ町

もう、出ないと思いますので、この中から決めたいと思います。

9つ出ていますので、

結果は、同点が3つ出ました。

- ・住んでみて、ここが1番、かつらぎ町
- ・住んでよかったまち、かつらぎ町
- ・住みたくなる、住み続けたい、かつらぎ町

過半数に達してないんですけども、一番多いのが、住んでみて、ここが1番、かつらぎ町なんですけども。あとは、2と3で割れました。どれも、みなさん今まで議論しつくしているんで、みなさんの思いはどれでも入っていると思うんですけども。ひとまずこれにしましょうか。

【住んでみて、ここが1番、かつらぎ町】

これで、とりあえずいきましょうか。いいですか。これを、一応スローガンに決めてください。

以上で、第5回までの長期総合計画に係る審議、人口目標と、かつらぎ町の将来像、長期計画のスローガンをみなさんで決めて頂いたということをもって、宿題の検案事項は、今回の議論の最初にあった、せっかく、みなさんがここまでたたき上げてきたこの基本計画が、ちゃんと中身を伴うようなものになるような、管理の進捗管理をする場をきっちり盛り込んでいただくことを、最終的に、事務局と詰めた文章を入れた

形で、いちおう我々としては、審議終了をもって、町長に答申という形で、持っていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、できましたら、最後にひとことずつ。

(委員)

短い回数でしたが、皆さんありがとうございました。失礼な発言もあったかと思いますが、ちゃんと聞いてくれて参加した意味があったと思います。ありがとうございました。

(委員)

いろいろ意見聞かせていただいて勉強になりました。ありがとうございました。

(委員)

初めて参加させていただいて、いろんな話聞かせていて、いろんな問題があるということを知りまして、自分のためもなったということで、満足しています。ありがとうございました。

(委員)

いろいろ勉強させていただきました。住みよいまちになるよう自分も地域へ参加をして行きたいと思います。勉強になりました。

(委員)

ありがとうございました。このお話を頂いた時にどうなるのかと何もわからないままに参加させていただいていましたが、役場の方から言われるままに私たちが実行することが多くて、私たちのほうから考えるということがあまりなかったもので、どのようになるのかと思っていましたが、勉強させていただきました。

今後も協力できることは協力していきたいと思います。

(委員)

役場の役をいくつかさせていただいていますが、同じような年代の方との会議がほとんどで、このような若い方を交えていろんな角度からの会議は初めてだったので、大変勉強になりました。ありがとうございました。

(委員)

ありがとうございました。これからこの構想や計画の実行について協力していきたいと思います。

(委員)

皆さんにいろいろご意見をお伺いして、かつらぎ町を愛する人がこんなにも大勢いるのかという感じを持っております。

また教育関係につきましては、皆様のご理解、ご支援、ご指導によって健全な子どもたちが育つように協力いただきたいと思います。ありがとうございました。

(委員)

このメンバーでよかったと思っています。難しい話もいっぱいありましたが、一つ一つみんなで作って行けば何とかできるのかなと思います。

一つ気がかりなのは、コミュニティという言葉がこの中によく出てきますがコミュ

ニケーションという言葉がなかなか出てこないように思います。

情報伝達手段をどう行政が確保するかということについて、この中に書かれていない。携帯電話やブロードバンドなどの既存の商業ネットワークを活用することは出てきていますが、例えば防災無線や橋本のコミュニティFMなど独自の情報ネットワークどう構築していくかというのがなかったのも、その部分は商用施設に委ねるのかなと思います。できれば行政で住民への情報をインターネット以外で提供できるような仕組みの構築をお願いしたい。

大変有意義な会議だったと思います。ありがとうございました。

(委員)

この審議会の委員をさせていただいて、かつらぎ町についていろいろ考える機会になりましたし、自分自身も子どもの活動をしているが、その活動をどうして行ったらいいのかとか、自分のためになる会だったと思います。

若い世代の声を聞いていただける機会とか、いろんなことに関わっていけるような機会があれば、ほんとに住みたくなる、住み続けたくなるまちになっていくと思います。

勉強になりました。ありがとうございました。

(岡村副会長)

大変勉強させていただきました。私も長い間役場に勤めておりましたが、今まで行政の中から見えてきたことと、行政の外に立場が変わって行政の中を見ていくということは、かなりの違いがあります。

地域では行政をこう見ているという目でいつもはばかりながら言っていますが、実はそういう意見が多く地域では聞かれます。

藤田先生のおかげで大変すばらしい答申ができたのではないかと思います。先ほども申しましたけども、絵に描いた餅ではなくて、実際かつらぎ町はこうしていくんだと、そしてそれは住民のためということ忘れないで続けていただきたいと思います。

(藤田会長)

ほんとに5回、みなさん晩御飯も食べずに、お仕事から直接参加していただいた方もいらっしゃるかと思います。ご苦労様でした。

私は、会長という職をおおせつかりましたけども、私自身は住民ではないわけで、相当好き勝手に議論を引っ張ってきた中で、根気よくお付き合いを頂いて本当に感謝をしています。

ただ言えることは、こういった計画というのは、安直に外部委託をして、ひどい場合には文章の中に前の町の地名が残っているというようなことも見受けられます。

そんな中で、何回も皆さんにご意見をいただいたものを青や赤や緑に変えて、ほんとに目の検査みたいに、役場の人汗をかいて頑張っただけでこられたのかなと思います。

そういう意味では、役場も5回の審議会を通じて力をつけたのではないかと思います。

皆さんもまさに協働という点で、スローガン作りも含めて関わったという意識をお

持ち頂く機会になったのではないかと思います。出席率が高かったことやいろいろな意見がでたこと、丁寧な議事録を作ったことの過程の財産というのはしっかり残るでしょうし、それは是非今後につなげていただきたいと思います。進捗管理等で絵に描いた餅に終わらせずにしていただきたいと思います。

最後に望むとすれば、出来上がった計画はこんな議論をもとに出来上がったんだということを広報等の機会に周知徹底する、今回の長期計画は、外部委託ではなく住民と役場の協働で作上げたんだということを広報に1枚ものでもよいので挟んでいただいて、町民に知らせるということをしていただきたいと思います。1度ではなく広報に特集を組んで、こういう計画をやろうとしているんだと具体的にPRする、そのようなことも含めて実現に向けて汗をかいていただきたいと思います。

ほんとに長い議論にお付き合いいただいて、立派な答申を、あとは町長にしっかり受け止めていただいて、行政にも予算をつけて実行していただいだけだと思しますので、皆さんが作り上げたものだということで、大いに自信を持っていただいて、第5回の審議会を閉会ということにします。ありがとうございました。

(事務局)

若干の修正も残っておりますが、先ほど、会長と協議をいたしまして、答申の冊子をみなさんの方にお送りさせていただきたいと思っております。

今後の予定といたしましては、答申を受けた後、議会に上程をさせていただきたいと思っております。その後、議会の中で、議決を頂いたのちに、製本し、みなさまの方に、送らせていただきたいと思います。

これから答申を、藤田会長と岡村副会長との調整を踏まえて、町長に答申をする予定です。これからも、何かの機会にはよろしく申し上げます。どうもありがとうございました。最後に、企画公室長の方から、お礼の言葉申し上げたいと思っております。

(事務局企画公室長)

最後になりましたが、事務局から、審議会の審議終了にあたりまして、お礼の言葉を述べさせていただきたいと思っております。藤田会長を始め、長期総合計画審議会のみなさまにおかれましては、昨年10月以降から5回にわたる審議会を通じて、熱心にご審議賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

会議を進めるにあたりましては、日程についてはとてもタイトなものになったのをはじめ、至らない点もあり、不便をおかけしたことをお許し頂きたいと思っております。また、審議につきましては、会議資料の事前配布が充分時間を取れない中、御見通しを頂きまして、総合計画策定にあたりまして、非常に様々な角度から、ご指摘・ご意見頂きまして、みなさまのご功勞に対し、感謝申し上げます。この総合計画は、10年ということで、大変な作業のなか、議論を重ね、審議を進めてきたところで、審議会委員のみなさんの、ご意見を反映した、手作りの計画として、受け止めさせて頂いております。

また、今日の話の中で、作るだけではなく、今後、5年後10年後、「住んでみて、ここが1番、かつらぎ町」となるように、ここの進み具合についても、強い思いを聞

かせて頂きました。後日、会長・副会長で町長に答申を頂きますけども、私どもといたしましては、町民の生活や暮らしを支える役場として、精一杯この計画の推進に取り組んでまいりたいと思いますので、今後とも、委員のみなさまには、ご指導たまわりますようよろしくお願いいたします。簡単ではございますが、お礼の言葉とさせていただきます。ほんとにどうもありがとうございました。